

ダメママでも結構いいママ



矢島知子

お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系
[112-8610] 東京都文京区大塚2-1-1
准教授, 博士(工学).
専門は有機合成, 高分子合成.
yajima.tomoko@ocha.ac.jp
www.sci.ocha.ac.jp/chemHP/labos/yajimaHP/

top.html

理系、化学、とくに指導的立場で女性比率がなかなか上がってこないのはなぜか？という問題に対し、雇用環境の問題、ロールモデルが不足していると言われて久しくなります。適切に表現するならば「とてもなれそうもない、またはとてもなりたくないロールモデルしかない」といったところでしょうか？このような中、私の所属するお茶の水女子大学は2006年JSTの支援の下、「女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築」という取り組みを行ってきました。2003年に娘を出産していた私は、「モデル研究員」として女性研究者の働きやすい環境とは？という問題に対する実験的な取り組みに参加させていただきました。この中で、「9時-5時勤務の徹底」「研究補助者の配置」など先進的(非常識?)な取り組みを行ってきました。年配の男の先生には「君たちがいるから僕たちまで5時に帰らなければならない」「子供産めば、人つけてもらえるんでしょ？」などというお言葉もいただき、「そうですねー、じゃあお産みになったらいかがですか？」と返すなどというシュールな会話もありました。しかしこの取り組みは、非常識なことをやってみることによって一定の成果を上げたと思っています。卒業生から、二人目が欲しいけど、新しいプロジェクトで責任ある職を貰えそう。どうしたらよいか、という相談を受けることがあります。片方を諦めるのではなく、両方諦めない選択を。お茶大モデルの中では、子育て中だからこそ、あえて責任ある仕事をということで国際シンポジウムの開催などを経験させていただきました。企業でも惜しみなく支援して欲しいですし、研究者側も1年休まなければいけないなどの常識を外して可能性を追求して欲しいと思います。

一方この取り組みの中で、気を付けなければいけないのは、子育て中の女性は満足感、幸福感よりも、罪悪感が大きいということだと感じました。ただでさえ産前産後はホルモンバランスが崩れ、気分も沈みがちなのに、仕事場ではいつも大変感、いっぱいいっぱい感を出してないといけない。フォローしてもらってるんだから幸せになっちゃいけない。男性にもぜひ、休みの日は子育てしてるとかではなく、平日に分担することによって、この申し訳ないという思いを体感して

欲しいと思います。

育児に関しても、母乳で育てるべき、なるべく長く一緒にいるべきといった情報が氾濫しています。あー、今日も怒鳴っちゃった……と落ち込む日もあります。ちゃんとできるのが当たり前で、責められる一方。喜びを実感したり、楽しんだりする時間は限られています。

でも、常識にとらわれず、ハードルを下げて、自分なりのやり方で自分に満足してあげていいと思います。「働く女性はオンとオフを切り替えてっ！」よく言われますよね、この話をしたら娘に「でもママはいつも弱でオンだね」と言われたことがあります。教育本には、よい子を育てるには！学校の先生の悪口を言ってはいけない、絵本は感情を込めてゆっくり読んであげましょう、などのチェック項目が載ってます。それを見た娘との会話。「すごいね、ママ、全部ダメなほうにチェックできるよ。」「ほんとだ。でも結構いい子に育ってると思うんだけど。」「ママも結構いいママだよ。」高い評価をいただきました。

みんな追い詰められている時代です。子育て中の女性だけでなく、働き方改革だ、安全管理だと「本当に私たちを守るつもりあるの？」と言いたくなるような枠組みに縛られ、自分を守ることで精一杯で、責任の所在を明らかにすることに終始していないのでしょうか？管理職の方々も大変です。産休取りたいですって言われたときに、つい「えー、またなの？」って言っちゃう気持ちもわかります。なので、そこも認めてあげて、対立の構造を作るのではなく、ちょっと相手の立場になって考えることによって、理解し合えたらいいなあと思っています。冒頭の「子供産めば人がつく」の件、文字に起こすと険悪な会話ですが、実際はそうでもないんです。この先生とは仲良しで爆笑で終わった会話です。思ったことをぱっと、我慢しないで言い合える、すこしゆとりのある社会を構築していきたいものです。

この生きにくい世の中の流れにどう抗っていくか、声をあげていかなければ変わらないと思っています。なにもできていない自分が歯がゆく思いますが、今日はちょっと締め切りを遅れたけど、この原稿を仕上げたことに満足することといたします。